

# eラーニング・対面講義・グループワークに対する 学習者の認知と成績との関連性

冨永 敦子\*, 向後 千春\*\*, 岡田 安人\*\*\*

## Relationships between Student Perceptions and Achievement in e-Learning, Traditional Face-to-Face Lectures and Group Work

Atsuko TOMINAGA\*, Chiharu KOGO\*\*, Yasuto OKADA\*\*\*

### 1. はじめに

eラーニングを実施している高等教育機関は年々増加しており、その授業形態としてはブレンド型授業が最も多いと報告されている<sup>(1)</sup>。ブレンド型授業とは、最適な授業を設計するために、対面授業、eラーニング、ワークブックなどの異なる学習メディアを組み合わせたものである。最も一般的なのは対面授業とeラーニングとを組み合わせたタイプである。

ブレンド型授業が学習に与える効果としては4点が挙げられる<sup>(2)</sup>。1) 対面授業に出席することにより学習者の孤立を防ぎ、ドロップアウトを食い止められる。2) 決まった時間と場所で対面授業を受けることにより、節度が与えられ、怠惰な学習習慣を正せる。3) 対面授業で学習者同士の相互働きかけや実体験が得られ、学習の定着に好影響を及ぼす。4) それぞれの得意分野を活かした、効果的な学習の分業が期待できる。

ブレンド型授業の先行研究では、対面授業の形態がそれぞれの実践によって異なる。たとえば、教室で講義を行い、eラーニングで予習や復習を行う実践では、eラーニングに積極的に取り組む学習者の成績が上がることが報告されている<sup>(3)~(5)</sup>。一方、eラーニングで学習した知識をもとに、対面授業でグループワーク

を行う実践では、eラーニングの視聴がグループワークに影響を与える<sup>(6)</sup>。なぜならば、eラーニングを視聴しなかったり内容を理解できていなかったりすると、グループワークに積極的に参加することができないからである。

このようにブレンド型授業における対面授業の形態にはバリエーションがあり、対面授業で、講義を中心に行う場合とグループワークを中心に行う場合では、eラーニングの役割をはじめとした位置づけが変わってくる。

そこで、本研究では、eラーニングでは知識を習得するために教員がビデオ講義を行い、対面授業ではeラーニングで得た知識を確認・定着するために学生同士のグループワークを行う授業を設定した。この設定のうえで、eラーニングとグループワークを組み合わせたブレンド型授業（以下、eL+GW条件と記述）と、eラーニングと同等の内容を教える対面講義に加えて、グループワークを組み合わせたブレンド型授業（以下、対面講義+GW条件と記述）を比較する。さらに、本研究におけるグループワークが、学習内容の確認・定着という付加的な役割であることを考慮して、eラーニングだけによる授業（以下、eL条件と記述）を比較条件に入れた。

以上の三つの授業形態による授業を実施し、授業形

\*\* 早稲田大学ライティング・センター (Writing Center, Waseda University)

\*\* 早稲田大学人間科学学術院 (Faculty of Human Sciences, Waseda University)

\*\*\* 株式会社アーネット (Earnet Co., Ltd.)

受付日: 2010年9月29日; 再受付日: 2011年1月16日; 採録日: 2011年4月8日